

第49回「日本キワニス文化賞」受賞者

いちやま なそよ
市山 七十世氏 (日本舞踊)



【プロフィール】

日本舞踊・市山流は、新潟の文化を語る上では欠かせない存在である。全国的にも珍しく地方都市に宗家を置き、祖は上方の歌舞伎役者。江戸で名声をあげた後、三代目市山七十郎(いちやま しちじゅうろう)が新潟に拠点を移した。時は江戸後期、港町・新潟の花柳界が花開こうとしていた頃。そこで、市山流は新潟古町芸妓の芸を、多くの人々を魅了する洗練されたものへと磨き上げていった。

現在の宗家である7代目市山七十世(いちやま なそよ)は、市山流の魅力積極的に情報発信している。平成19年には、「新潟下駄総踊り」の振り付けを手がけ、毎年9月に開催される「にいがた総おどり」の中で、樽砦(たるきぬた)に太鼓、三味線のリズムに合わせ、足元には小足駄(こあしだ)を履き、インドの民族衣装サリーの古布から仕立てた着物を身にまとった、全く新しい踊りを誕生させた。小足駄を作る地元職人の技を守りながら、インドの人達の生活も支えている。「楽しいだけでなく誰かの支えにもなっている」ことに想いを馳せながら踊る。古くから伝わる歴史に新しい命を吹き込み、新潟の魅力あふれる一大イベントへと成長し続けている。

七十世さんは日本舞踊の魅力について、「子供達を含めたより多くの人に知ってもらいたい」と語る。

(注) にいがた総おどり

- ・毎年9月の3連休に開催
- ・約300団体、総勢14,000人の踊り子と数百名の市民ボランティアが参加
- ・観客 約35万人
- ・新潟下駄総踊りを含めた、さまざまなプロジェクトで構成されている。

【略歴】

平成6年 文化庁芸術祭受賞
平成15年 新潟市第1号無形文化財に認定